# 京都市地域･多文化交流
# ネットワークサロン通信

発行日 2013年３月１日　編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン　第７号

## ネットワーク促進と福祉ニーズの解決

事業推進委員会の様子

京都市地域・多文化交流ネットワーク促進事業が開始されてから、１年８ヵ月がたち、４月で３年度目を迎えます。これまで様々な取り組みを行ってきましたが、その都度、『ネットワークサロン通信』で報告をしてきました。講演会や研究会などの目に見えた取り組みは、写真付きで報告をしやすいのですが、市民の福祉ニーズ（生活上の困難な問題）の解決に対して相談を受け、解決や改善に至ったことなどは報告しにくいものです。当然、個人情報やプライバシーの問題があり、綺麗事ではすますことが出来ない複雑な状況もあります。例えば、入居拒否やＤＶを受けているフィリピン人女性のケースについて、京都パグアサ・フィリピン・コミュニティ（登録団体）から相談を受け、他の登録団体の専門家に「つなぎ」、問題の解決や改善に向かう取り組みを行ってきました。このような、登録団体との連携や登録団体間の連携の取り組みの一環として、「京都のフィリピン人の今」（２月９日）と題するワークショップを行い、日本に住むフィリピン人の課題を共有する機会を持ちました。登録団体も43を数え、各団体の機能を結集することで、これからも少しでも市民の福祉ニーズに応えられるようにしていきたいと思っています。

（前川 修）

報告①

# 地域における多文化交流の現実
## ～フラ教室の試みから～

昨年、11月に行われた「多文化交流ステージ」での３世代フラのお披露目

月１回のフラダンス教室を始めて、早１年が経ちました。当初は、高齢者の健康維持のために始まったフラダンス教室ですが、忙しいママ世代やその子どもたちにも体験して欲しいと思い、親子フラダンス教室もスタート。講師のＩＫＵ先生が同じ踊りを指導してくださり、多文化交流ステージでは、保育園児、学童、ママ、高齢者の３世代フラが実現しました。登録団体の京都パグアサ・フィリピン・コミュニティのメンバーも参加していただき、地域交流と多文化交流が一挙に実現しました。高齢者フラでは、デイサービスの利用者が参加したり、親子フラのメンバーがのぞきに来てくれるなど、日常的な異世代交流も進んでいます。また、親子フラでは地域のデイサービスを訪問して、高齢者の皆さんに喜んでもらっています。保育園や児童館、高齢者施設が隣接していても、一回切りのイベントで終わらせずに、世代を超えた交流を日常的に続けることは難しいことなので、交流の場を意識的に設けることが必要です。そんな場にフラダンス教室がなっていってくれるように、取り組んでいます。ぜひ、のぞいてくださいね。毎月第２木曜日、ネットワークサロンで開催中です。

（宇山 世理子）

# 地域に育てられて　～ボランティア経験を通して～

日本に対する関心は、アニメでした。ワンピースとか、ドラえもんなど、初めは中国のアニメだと思ったんですが、日本のものだと聞いて、日本の文化に関心を持ちました。中国でも、日本語学校に行っていたけど、20歳の時、2009年末から３か月間日本語を勉強して、京都に来ました。龍谷大学の別科で、さらに、１年半勉強していました。すぐに東福寺の近くにある留学生が通っている教会に行くようになり、そこの牧師先生と東九条の焼肉家（ハルバン）のオモニが知り合いで、アルバイトをするようになったんです。さらに、オモニは、東九条まちづくりサポートセンター<まめもやし>を紹介してくれたんです。私が、おじいちゃんやおばあちゃんがとても好きで、ボランティアをしたいと言っていたので、2011年９月から、手伝わせてもらいました。在日の人ははっきりしゃべる人が多いから、楽しかったです。

私は中国人（朝鮮族）ですが、日本のコリアンと似ているところがあります。私の行動範囲にはコリアンの人が多かったから、ここは日本かなという感じでした。東九条地域に来るようになって、その縁で、ネットワークサロンのホームページの翻訳をさせてもらいましたし、地域の方に中国語を教えさせてもらいました。お嫁さんが中国人の方で、とても熱心なことに驚きました。東九条の人は面白いと思います。東九条マダンや春まつりなどで、ハルバンの出店にもよく買いに来てくれますしね。一番印象に残っているのは、希望の家の「にこにこや」でボランティアをしていた時に、私のお父さんが脳出血で倒れたという話をしたら、地域のおばあさんも、「私の夫もそうやで」と言って、でも、「今は元気だよ」と、おじいさんを紹介してくれた。親身になって相談に乗ってくれて、本当に元気をもらいました。帰国してお父さんの介護をした方がよいかなと思いましたが、今は、花園大学で社会福祉を学び、将来は、東九条で福祉の仕事に就けたらなと思っています。

（花園大学１回生 宋明月）

（シリーズ）登録団体との連携・紹介（７）

# 東九条地域における医療・福祉のネットワークを発展させる連絡会

連絡会を構成する各事業所・施設の職員が集まる懇親会の一場面（2013年２月）

平成12（2000）年、介護保険制度が創設されて以降、介護保険サービスは高齢者の生活課題の解決に対して大きな役割を担うようになりました。しかし一方で、在日外国人や単身生活者の多さなど「高齢化」以外の様々な課題を抱えるこの東九条地域では、従来から地域に関わってきた医療機関、ＮＰＯ法人、行政、社協、福祉センター等との連携の輪が必要であると考えられ、この「東九条ネットワーク」が発足しました。地域を担当する東九条、陶化の２つの地域包括支援センターが事務局として会の運営に関わり、この地域に関わる診療所・各事業所等がメンバーとなり勉強会や懇親会などを行い、連携を深めています。現在、東九条地域は住宅市街地総合整備事業等により街の様相を大きく変えており、ほんの10年前の姿とも全く違ってきました。市営住宅が建ち、住環境も改善。介護保険制度の浸透により生活の質を上げられている方も増えています。しかし、そこから浮かび上がる新たな問題や刻々と変化していく地域の状況に対して、このネットワークが担える役割は一体何かを、これからも問い続け前進していきたいと思います。

（事務局 京都市陶化地域包括支援センター・京都市東九条地域包括支援センター）

# 第２回東九条春まつりへの期待

～春まつり実行委員長に就任して～

東九条春まつりの実行委員長を引き受けるにあたって、私なりの思いを少し述べてみたいと思います。1987年、日本自立生活センター（JCIL）代表の長橋栄一さんから呼ばれ、障害者運動の勉強を目ざして山形から来京しました。白梅町に設けたJCILの事務所を東九条北松ノ木町に移したのが1993年。その後、東九条マダンの司会者をさせてもらったりもしました。代表が「事務所を東九条に移そう」と言った時、反対意見もありました。「こわい所だ」と言って、その後一回も事務所を訪れない人もいました。社会的マイノリティの人たちが多く住んでいる所に飛び込んで、自立生活運動を展開するのは簡単ではありませんでした。近所の住民との軋轢は絶えませんでしたし、差別的なこともずいぶん言われました。被差別と言われるマイノリティでも働いているではないか。私たち障害者は、それもできないという大きな違いがある、とも思ってました。色々な方にも支えられて東九条で活動をしてきましたが、今回、私が実行委員長になったことで、私たちの存在がこの地域で、少しでも受け入れられつつあるのかなと嬉しく思いました。春まつりは、コリアンの人たちをメインとする東九条マダンとも主旨が違うと思いますし、いわゆる多文化の中に、障害者の社会参加が加えられるということ。電動車いすを街の中で普通に見かけること。それが当たり前になること。私はそこに「共生」の姿を見ています。春まつりもそのような場になればと期待しています。

（日本自立生活センター　矢吹 文敏）

第２回東九条春まつり実行委員会（２月１日）　。今回は、４月13日（土）に開催が決定。

登録団体企画

## エル・システマ無償の音楽教室　デュオ・リサイタル

長山慶子さん（左）と渡部延男さん（右）が奏でる音色に聞き入る来場者

１月26日（土）、大阪音大の准教授で世界的なフルート奏者の長山慶子さんを迎えてフルートとギターのコンサートを行いました。第１部はエル・システマの子ども達の発表に続き長山先生と渡部先生のコンサートを行いました。長山先生はフルートの技法で水戸黄門の悪者の音楽をやって下さったり、ユーモアのある楽しいおしゃべりに笑いが出、とても親しみやすいコンサートでした。最後のラビィ・シャンカールの「魅惑の夜明け」では大ホールでやるのと寸分たがわぬ渾身の演奏で拍手がなりやまず、アンコールの「母さんのうた」では「フルートで泣けてギターのパートで二度泣けた」と言ってくれた人がありました。当日は60人以上のお客さんが入り、会場はほぼいっぱい。地域の方の他に音楽関係の方も多数見えました。遠く姫路や大阪からもいらしていました。

また、コンサートの後、長山先生はエル・システマの生徒や親との交流会をもって下さいました。「いつからフルートを始めたんですか」という問いに「中学校のブラスバンドがきっかけ」との応えには「えーっ」と歓声があがりました。「音楽は表現力だから、学校や生活やひとつひとつの体験を大事にして感性をみがいて」という言葉が印象にのこりました。著名な音楽家と親しく言葉を交わした経験は子ども達の一生の思い出と誇りになるでしょう。

今回のコンサートは登録団体の企画として行ったものです。エル・システマはベネズエラで始まった楽器貸与の無償の音楽教育運動で、世界的な音楽家の方々がエル・システマへの協力を表明されています。東九条でどんどん一流のコンサートをやり、ここが最高の音楽教育の場になればいいなと夢が広がります。

（エル・システマ無償の音楽教室　渡部 康子）

報告②　課題解決に向けた新たな連携

# 京都のフィリピ人の今 ワークショップ

２月９日、「京都のフィリピ人の今」と題したワークショップを行いました。登録団体の京都パグアサ・フィリピン・コミュニティとネットワークサロンの共催企画として取り組まれ、50名近くの方々が参加されました。フィリピンコミュニティの草創期から関わっているルカス神父から、京都のフィリピンコミュニティの活動の歴史を紹介してもらい、その後、パグアサメンバーから現在の活動についての紹介がありました。フィリピンにルーツを持つ子どもたちの学習活動の報告は貴重な内容でした。奈良や彦根から駆け付けたメンバーが、コミュニティの現状について紹介してくれました。さらに、本企画に後援をしていただいた京都市国際交流協会や、普段から連携のあるＹＷＣＡ京都からの発言もありました。参加者層には日本人やダブルの子どもたちも多く、世代も多様でした。後半からは、ミニコンサートとポットラック（持ちよりパーティー）を行い、フィリピンのお菓子のギナタアン・ハルハル、ビーコ、パンシット・ビーホンと、東九条地域ではおなじみのチヂミ、ホットックが並び、交流が弾みました。子どもの教育や生活、仕事のことで困難を抱えるフィリピン人が、同胞同士で助け合うコミュニティと、それをサポートする日本社会の輪がひろがった一日でした。幾つかの登録団体からの参加もあり、ネットワークサロンとしても、新たなつながりをコーディネートする機会となりました。

（山本 崇記）

京都パグアサフィリピンコミュニティの活動紹介の風景

# ＜サロンへのメッセージ＞ 現場で学ぶことの意義

高齢者交流室で地域のお年寄りの話を聞く

立命館大学の丸山ゼミでは、一昨年からネットワークサロンの協力を得て、ゼミ生を連れて地域を歩き、オモニ・ハッキョや希望の家児童館、希望の家地域福祉センターの活動を見学、参加させてもらいました。一昨年は街歩きだけで終わってしまった反省もあり、昨年は事前に東九条地域の歴史や現状について学び、インタビュー項目など調査の準備をして臨みました。地域の方々に温かく受け入れて頂き、その後ボランティアとして地域に関わるようになった学生も出てきて、担当教員としてはうれしいところです。私自身は、ホームレスに関する研究をしており、東九条にはこれまであまり関わりがなかったのですが、京都のいろいろなところで出会う人たちが、不思議とみな東九条と接点を持っていることを知り、立命館大学で働きはじめたのを機に、私自身も東九条の街をもっと知りたいと考え、学生とともに学ばせていただきはじめたところです。私の知る釜ヶ崎と同様、東九条地域は意識的な活動や社会事業が多く取り組まれており、それらのネットワークの厚さを感じます。学生たちにその社会的資源のひろがりや厚みを感じさせるのは難しいですが、学生たちが地域で学び、それをまた地域に還していけるような教育の取り組みを、時間をかけて作っていきたいです。

（立命館大学　丸山 里美）

## ◆ネットワークサロンとは？

京都市地域・多文化交流ネットワークサロンは、京都市の事業として実施されています。プロポーザル（公募）、審査を経て、2011年7月より、社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会地域福祉センター希望の家が管理・運営を行っています。南区東九条地域の歴史的特性から、多様な背景を持った人たちが交流し、共生するための社会事業を実施するためのセンターとして設立されました。ネットワークサロンの趣旨に賛同する地域団体や社会団体とともに、地域交流と多文化共生を促進する事業を進めています。ホームページやメールマガジンを通じて、情報発信をしています。ぜひ一度、当サロンにお越しください。多様な企画やイベントがあなたをお待ちしています。

□所在地　〒601-8006　京都市南区東九条東岩本町31（京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内）
□ＴＥＬ　075-671-0108　□ＦＡＸ　075-691-7471　□Ｅ-Mail　salon_kyoto@ck9.so-net.ne.jp
□開館時間　9時～17時　□WEBサイト　http://www016.upp.so-net.ne.jp/k_salon/
□アクセス　京都駅・京阪東福寺駅・地下鉄九条駅 徒歩10分　市バス42・202・207・208 九条河原町